

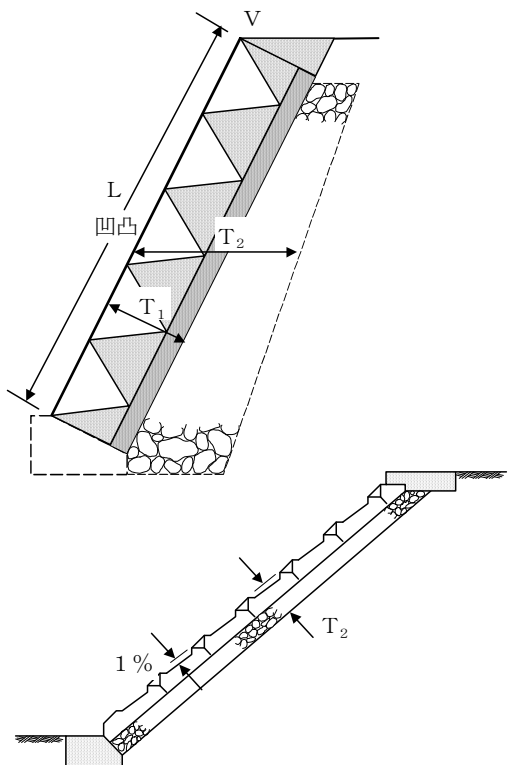
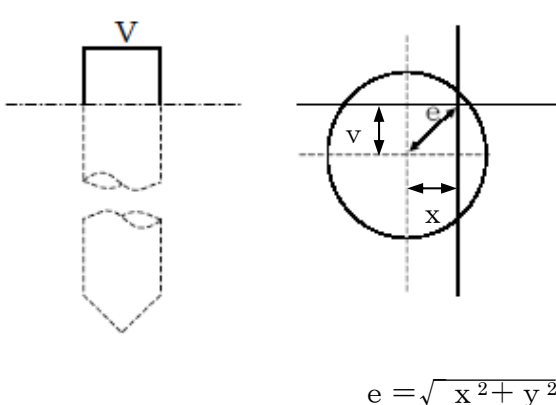
## 別表第 1 直接測定による出来形管理

(空 白)

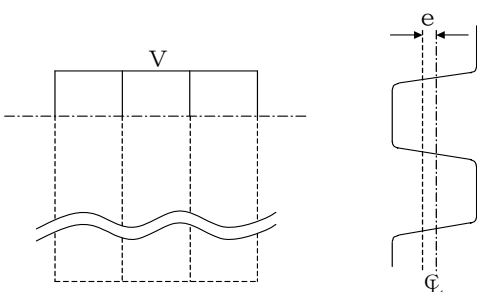
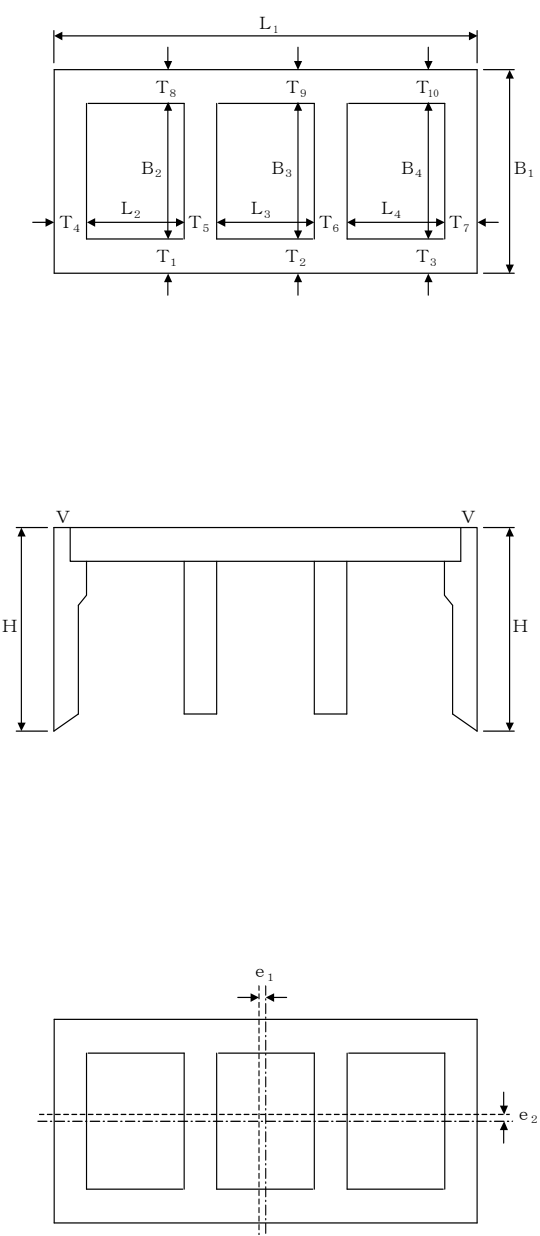
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	掘削	基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	線的なものについては 施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
		幅(W)	基準幅、 小段幅等 ⊕ 300 ⊖ 100	⊖ 150	
		法長(L)	法長 5 m未満⊕ 125 " 5 m以上⊕ 2.5%	⊖ 200 ⊖ 4%	
		施工延長		⊖ 200	
	盛土	基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	上記と同一。
		幅(W)	天端幅、 小段幅等 ⊕ 300 ⊖ 100	⊖ 150	
		法長(L)	法長 5 m未満⊕ 65 " 5 m以上⊕ 1.3%	⊖ 100 ⊖ 2%	
		施工延長		⊖ 200	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、法長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの		
同 上	同 上	同 上		余盛を指定した場合は余盛計画高により管理する。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	石積み	基準高(V)	⊕ 40      ⊖ 25	⊕ 65   ⊖ 40	<p>線的なものについては施工延長おおむね 20mにつき 1 箇所の割合で測定する。            上記未満は 2 箇所測定する。            厚さ(T<sub>1</sub>、T<sub>2</sub>)の測定は各々、法長 2 m未満は 1 箇所(おおむね<sup>L/2</sup>)、2 m以上は 2 箇所(おおむね<sup>L/3</sup>、<sup>2/3</sup>L)測定することを原則とする。            箇所単位のものについては適宜構造図の寸法標示箇所を測定する。</p>
	コンクリートブロック積み	厚 さ(T <sub>1</sub> )	石面より裏込コンクリート背面まで ⊕ 30	⊖ 50	
	石張工	(T <sub>2</sub> )	石面より裏込材料背面まで ⊖ 65	⊖ 100	
	コンクリートブロック張り	法長(L)	法長 2 m未満⊕ 25 " 2 m以上⊕ 50	⊖ 40 ⊖ 75	
	〔河川護岸〕 は除く	施工延長		⊖0.1%、 ただし延長 10m未満 ⊖ 50 10m以上 50m未満 ⊖ 100 50m以上 200m未満 ⊖ 200	
		凹凸	法長の 1 % (コンクリートブロック積みのみ)		
	基礎杭打工	基準高(V)	⊕ 50      ⊖ 30	⊕ 75      ⊖ 45	<p>重要構造物は全数、それ以外は施工本数 20 本当たり 1 本測定し、20 本未満は 2 本測定する。            支持杭については打止り沈下量を全数測定する。</p>
	木杭		場所打杭 ⊕ 30 深礎杭 ⊕ 30	場所打杭 ⊕ 45 深礎杭 ⊕ 45	
	プレキャストコンクリート杭	偏心 (e)	別表ア参照 深礎杭 100	別表ア参照 深礎杭 150	
	鋼管杭				
	場所打杭				
	深礎杭				

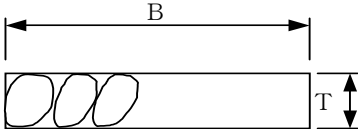
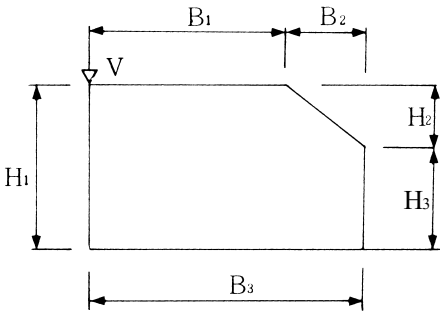
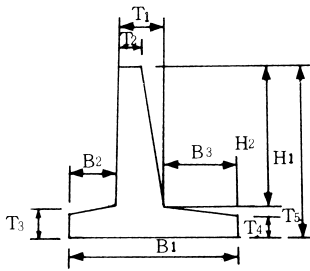
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、厚さ、法長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの及び施工延長		<p>基礎コンクリートはコンクリート基礎を適用する。</p> <p>法長の 1 % とは、山と谷の差の絶対値をいう。</p>
—	基準高、偏心。 なお、別に支持力を示したものについては、杭打ち成績表(様式 4)による。	—	 $e = \sqrt{x^2 + y^2}$	場所打杭とは、オールケーシング工法、リバース工法、アースドリル工法とする。

工 種		項 目	管理基準値 (mm)	(参 考) 規格値 (mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	矢板打工 (矢板護岸を 含む)	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 45	線的なものについては施 工延長おおむね 20m につ き 1 箇所の割合で測定す る。 上記未満は 2 箇所測定す る。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65	⊕ 100	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖200	
	オープンケー ソン	基準高(V)	⊕ 65	⊕ 100	構造図の寸法標示箇所を 測定する。 幅、厚さ、長さについて は 1 ロット毎に測定す る。
		幅(B)	⊕ 30	⊖ 50	
		厚さ(T)	⊕ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 65	⊖ 100	
		長さ(L)	⊕ 30	⊖ 50	
		偏位(e)	200	300	

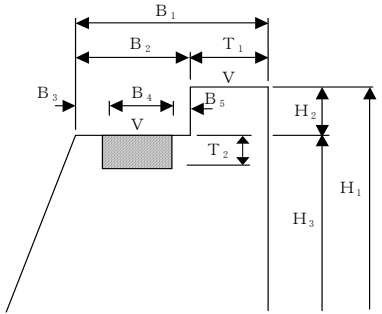
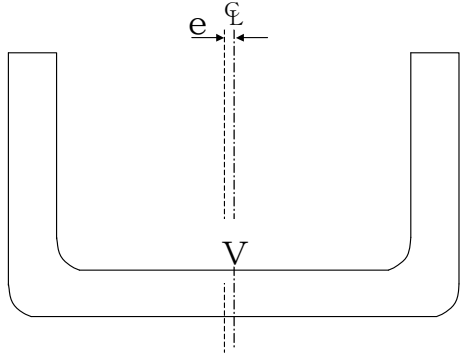
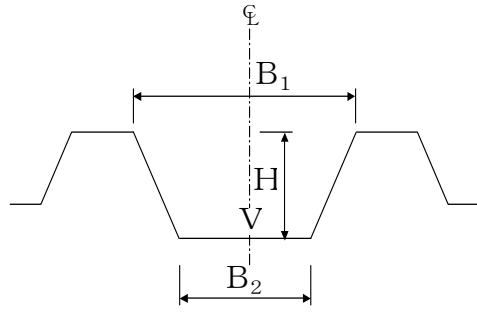
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	左記のもので箇所単位のもの		中心線のズレは中心線より右を⊕左を⊖とする。 指定仮設は基準高等が明記されたもの。
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ、偏位		



工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	栗石基礎	幅(B)	栗石基礎、碎石基礎 ○ 130	○ 200	線的なものについては 施工延長おおむね50m につき1箇所の割合で 測定する。 上記未満は2箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
	碎石基礎		砂基礎、均しコンクリ ート ○ 65	○ 100	
	砂基礎	厚さ (T)	栗石基礎、碎石基礎、 砂基礎 ○ 30	○ 50	
	均しコンクリ ート		均しコンクリート ○ 13	○ 20	
		施工延長		○ 0.2%、 ただし延長 50m未満 ○ 100	
	コンクリート 付帯構造物	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 45	線的な構造物について は施工延長おおむね 20 mにつき1箇所の割合 で測定する。 上記未満は2箇所測定 する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 標示箇所を測定する。
	コンクリート 基礎	幅(B)	⊕ 20	○ 30	
	コンクリート 側溝	厚さ(T)	部材厚 30 cm未満 ⊕ 15 ○ 13 " 30 cm以上 ⊕ 20 ○ 15	○ 20  ○ 25	
	コンクリート 管渠	高さ(H)	2 m未満 ⊕ 20 2 m以上 ⊕ 30	○ 30 ○ 45	
	横断構造物	施工延長 (又は長さ)		○ 0.1%、	
	コンクリート 擁壁			ただし延長 2m未満 ○ 30 10m " ○ 50 50m " ○ 100 200m " ○ 200	
	その他上記に 準ずるもの				

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	重要構造物の基礎のみ及び施工延長	左記のもので箇所単位のもの		管水路の基礎は「8 管水路工事の管体基礎工(砂基礎等)」による。
基準高、幅、厚さ、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの又は構造図に朱記、併記することが困難なもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ	 	

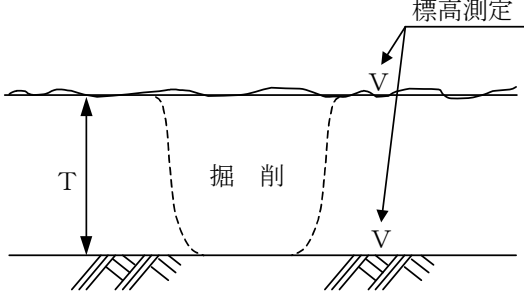
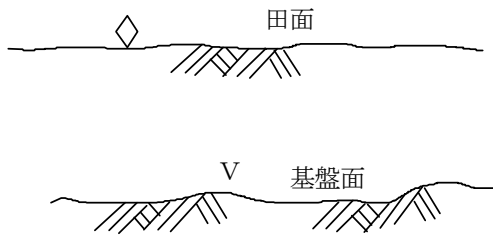
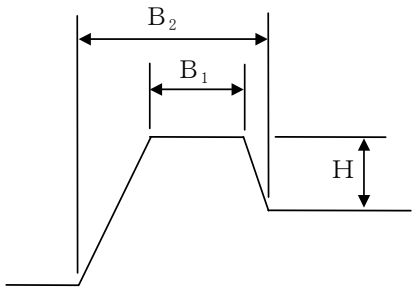
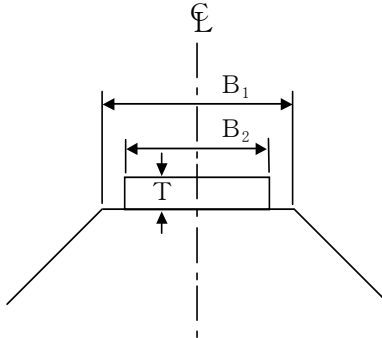
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	精度を要する もの	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	構造図の寸法標示箇所 を測定する。
		幅(B)	⊕ 7	⊕ 10	
		ゲート戸当部 厚さ(T)	⊕ 13	⊕ 20	
		橋台沓部 高さ(H)	⊕ 7	⊕ 10	
		長さ(L)	⊕ 7	⊕ 10	
	U 字溝	基準高(V)	⊕ 25	⊕ 40	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。
	U字フリューム	中心線の ズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50	
	ベンチフリューム	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
	土水路	基準高(V)	指定したとき⊕ 65	⊕ 100	上記と同一。
		幅(B)	⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		高さ(H)	指定したとき ⊕ 100 ⊖ 50	⊖ 75	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 400	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ	 <p>A cross-sectional diagram of a manhole structure. It shows a rectangular structure with a sloped side on the left. Dimensions are labeled: B<sub>1</sub> (top width), B<sub>2</sub> (width below B<sub>1</sub>), T<sub>1</sub> (thickness of the top slab), V (vertical distance between slabs), B<sub>3</sub> (width of the sloped side), B<sub>4</sub> (width of the bottom slab), B<sub>5</sub> (width of the bottom slab), T<sub>2</sub> (thickness of the bottom slab), H<sub>1</sub> (total height), H<sub>2</sub> (height of the top slab), and H<sub>3</sub> (height of the bottom slab).</p>	
基準高、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>A cross-sectional diagram of a U-shaped manhole structure. It shows a U-shaped structure with a vertical centerline. Dimensions are labeled: e (offset from centerline), φ (diameter of the opening), and V (vertical distance from the bottom of the U-shape to the centerline).</p>	
基準高、幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>A cross-sectional diagram of a trapezoidal manhole structure. It shows a trapezoidal structure with a vertical centerline. Dimensions are labeled: φ (diameter of the opening), B<sub>1</sub> (top width), H (height), V (vertical distance from the bottom of the trapezoid to the centerline), and B<sub>2</sub> (bottom width).</p>	

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
1 共 通 工 事	鉄筋組立	かぶり (t)		$\pm \phi$ かつ最小かぶり以上  $\phi$ : 鉄筋径	測定箇所標準図による。 1 スパン(1 打設ブロック)毎に測定する。
		中心間隔 (b)		$\pm \phi$  $\phi$ : 鉄筋径	

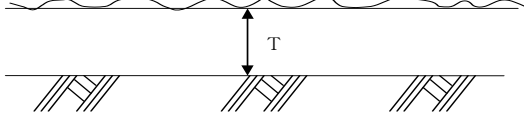
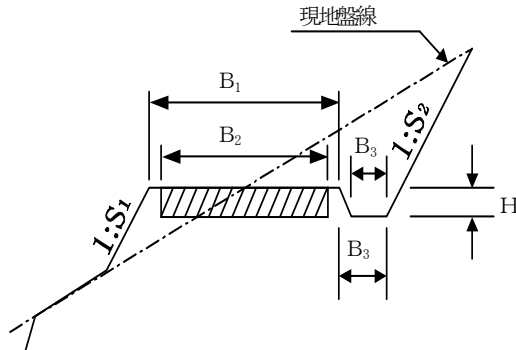
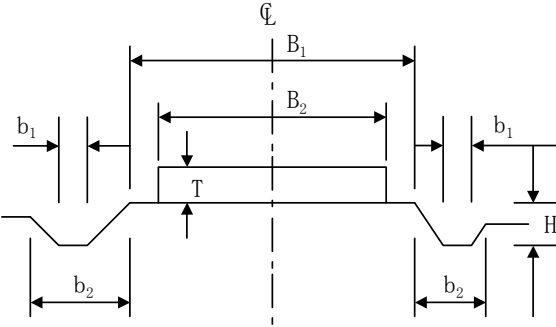
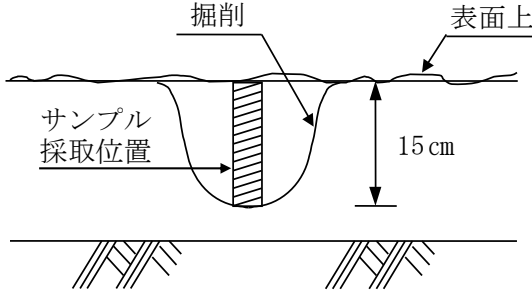
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-6)	構造図に朱記、併記するもの		
—	○	—	<p>鉄筋のかぶり(t)の測定位置(ボックスカルバートの例)</p> <p>断面図: 幅B, 高さH. 測定位置は幅方向B/3程度, 高さ方向H/4程度. 側壁部: 長さL, 高さH. 測定位置は長さ方向L/3程度, 高さ方向H/4程度. 頂版、底版部: 幅B, 長さL. 測定位置は幅方向B/3程度, 長さ方向L/3程度. A部詳細図: 主鉄筋と配力鉄筋の位置関係, かぶり(t)の測定位置を示す. ○、○ = 測定箇所</p>	1 面当たり 4 箇所程度 測定する。 同一鉄筋上 での測定は 行わない。
			<p>中心間隔(b)の測定位置(ボックスカルバートの例)</p> <p>断面図: 幅B, 高さH. 測定位置は幅方向B/3程度, 高さ方向H/4程度. 側壁部: 長さL, 高さH. 測定位置は長さ方向L/3程度, 高さ方向H/4程度. 頂版、底版部: 幅B, 長さL. 測定位置は幅方向B/3程度, 長さ方向L/3程度. B部詳細図: 鉄筋の中心間隔(b)の測定位置を示す. n=10本</p>	1 面当たり鉄 筋 10 本程度 の間隔を測定 する。 測定箇所は、 スパン毎に同 じ位置となら ないように測 定する。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
2 ほ 場 整 備 工 事	表土扱い	厚さ(T)	⊕ 20% ⊖ 15%	⊖ 20%	10a 当たり 3 点以上。 (標高差測定又はつぼ掘りによる)
	基盤造成 表土整地	基準高(V)	指定したとき ⊕ 100	⊕ 150	10a 当たり 3 点以上。 (標高測定する)
		均平度 (◇)	⊕ 35	⊕ 50	
	畦畔復旧	幅(B)	⊕100 ⊖ 35	⊖ 50	施工延長おおむね200m につき 1 箇所割合で 測定する。 施工延長を示さない場 合は、1 耕区につき 1 箇 所の割合で測定する。
		高さ(H)	⊕100 ⊖ 35	⊖ 50	
	道路工 (砂利道)	幅(B)	⊕ 150 ⊖ 100	⊖ 150	幹線道路は、施工延長 50mにつき 1 箇所の割 合で測定する。 支線道路は、施工延長お おむね 200mにつき 1 箇所の割合で測定する。
		厚さ(T)	⊕ 30	⊖ 45	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 400	

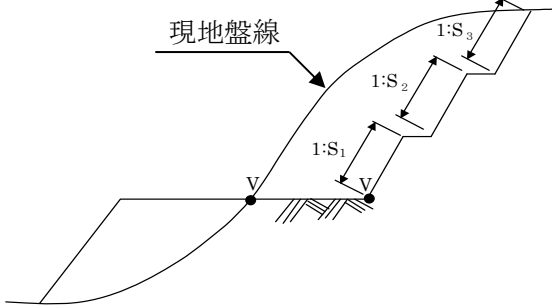
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
基準高、均平度で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		1 基準高は、基盤面の高さとする。 2 均平度は表土埋戻後に測定する。
幅、高さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
幅、厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		舗装を行うときは、「4 農道工事」を適用する。



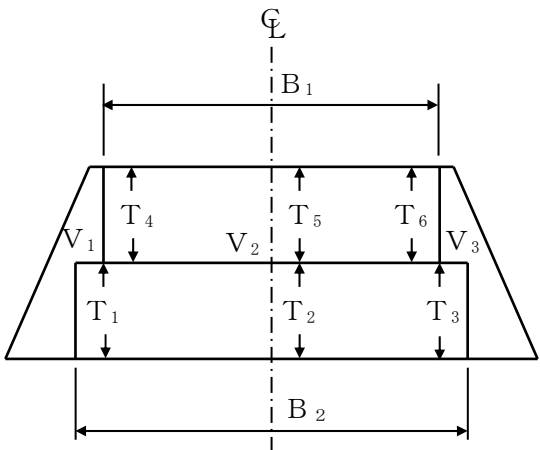
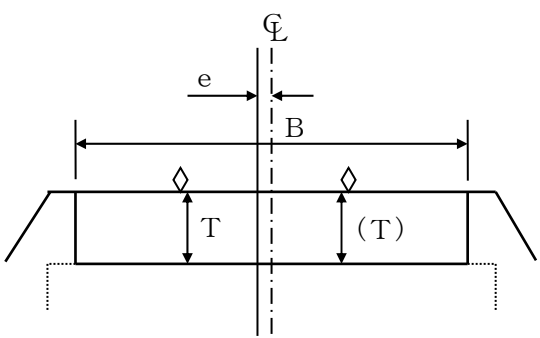
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
3 農 用 地 造 成 工 事	耕起深耕	耕起深(T)	果樹 ⊖ 50	⊖ 75	おおむね ha 当たり 10 箇所測定するほか、つば 掘り 2 箇所/ha。
			野菜 ⊖ 10	⊖ 15	
	テラス (階段畑)	幅(B <sub>1</sub> )	指定したとき ⊕300      ⊖100	⊖ 150	テラス延長おおむね 100m 当たり 1 箇所測定 する。
		耕起幅 (B <sub>2</sub> )	指定したとき ⊕ 100	⊖ 150	
		側溝幅 (B <sub>3</sub> )	⊕ 100      ⊖ 50	⊖ 75	
		側溝高さ (H)	指定したとき ⊕ 100      ⊖ 50	⊖ 75	
		法勾配(S)	指定したとき ⊕ 2 分      ⊖ 1 分		
	道路工 (耕作道)	幅(B)	⊕ 150      ⊖ 100	⊖ 150	施工延長おおむね 100 m 当たり 1 箇所測定す る。
		厚さ(T)	⊕ 30	⊖ 45	
		側溝幅(b)	⊕ 100      ⊖ 50	⊖ 75	
		側溝高さ (H)	指定したとき ⊕ 100      ⊖ 50	⊖ 75	
	土壌改良	pH測定	指定したとき ⊕ 0.35	⊕ 0.5	おおむね 50a 当たり 1 箇所(深さ 15 cm)改良材 散布後 2 週間以上経過 して測定する。(試験方 法…ガラス電極法…46 農地C第 311 号参照)

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
耕起深で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
幅、耕起幅、側溝幅、側溝高さ、法勾配で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
幅、厚さ、側溝幅、側溝高さで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
pH測定で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		地表から 15 cm の土壌を柱状に採取し、良く混合する。

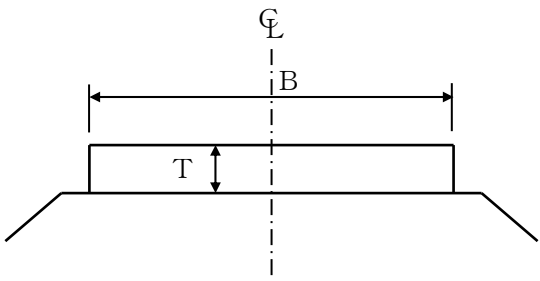
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
3 農 用 地 造 成 工 事	改良山成	基準高(V)	指定したとき $\pm 200$	$\pm 300$	基準高については切土部を 40mメッシュ地点で測定する。 法勾配については 40mメッシュ線と切土法尻との交点で測定する。 (測定間隔はおおむね 40m)
		法勾配(S)	指定したとき $\pm 1$ 分		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、法勾配で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		切土部のみ対象とする。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	路盤工	基準高(V)	下層路盤 $\pm 30$	$\pm 50$	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		幅(B)	$\oplus 50 \quad \ominus 35$	$\ominus 50$	
		厚さ(T)	下層路盤 $\pm 30$ 上層路盤 $\pm 20$	下層 $\ominus 50$ 上層 $\ominus 30$	
		中心線の ズレ(e)	$\pm 65$	$\pm 100$	
		施工延長		$\ominus 0.2\%$ 、 ただし延長 150m未満 $\ominus 100$	
	コンクリート 舗装工	幅(B)	$\oplus 30 \quad \ominus 20$	$\ominus 30$	幅、中心線のズレについ ては施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所の割 合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 厚さはおおむね 500 $\text{mm}^2$ に 1 個の割合でコアを 取りコア又はコアホー ルにより測定する。
	アスファルト 舗装工	厚さ(T)	コンクリート舗装 $\oplus 10 \quad \ominus 6.5$ アスファルト舗装 各層 $\oplus 10 \quad \ominus 6.5$ 全層 $\oplus 15 \quad \ominus 10$	$\ominus 10$ $\ominus 10$ $\ominus 15$	
		中心線の ズレ(e)	$\pm 35$	$\pm 50$	
		施工延長		$\ominus 0.1\%$ 、 ただし延長 150m未満 $\ominus 150$	
		平坦性(F)		As 舗装 3mプロフィル メータ標準偏差 $\sigma = 2.4\text{mm}$ 以内 直読式標準偏差 $\sigma = 1.75\text{mm}$ 以内 Co 舗装 標準偏差 $\sigma = 2.0\text{mm}$ 以内	
					平坦性は 1 車線につき 1 測線全延長中心線に 平行に測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		
幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの  平坦性は舗装調査・試験法便覧による	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	 <p>T と (T) は、ちどりにコア採取 ◇ は、コア採取位置</p>	

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	砂利舗装工	幅(B)	⊕ 100 ⊖ 65	⊖ 100	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。
		厚さ(T)	⊕ 30	⊖ 45	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 50m未満 ⊖ 100	

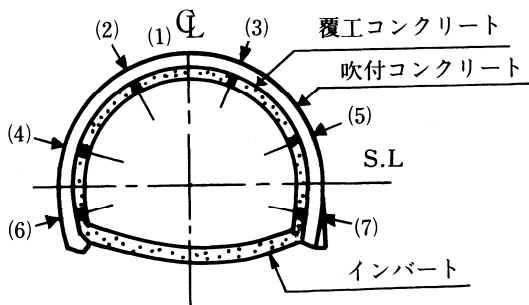
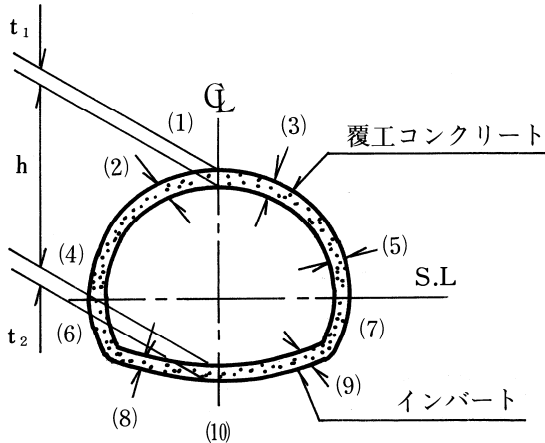
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、厚さで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		



工 種		項 目		管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	道路トンネル	支 保 工	幅(b)		⊖ 70	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			間隔(ℓ)	⊕ 50	⊕ 75	
		コ ン ク リ ー ト 覆 工	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンにつき1箇所割合で測定する。 2. 巻 厚 (イ)コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの中間と終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ロ)コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ハ)削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所、②③⑨において100mにつき1箇所割合で行う。 ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所割合で測定する。
			幅(B)	⊕ 45	⊖ 70	
			巻厚(T)	⊖ 30	⊖ 50	
			高さ(H)	⊕ 45	⊖ 70	
			中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
				曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
			施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上のもの	左記のも で 20 点未満 のもの	—		破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。
基準高、幅、 巻厚、高さ、 中心線のズレで 20 点 以上のもの	左記のも で 20 点未満 のもの及び 施工延長	—		

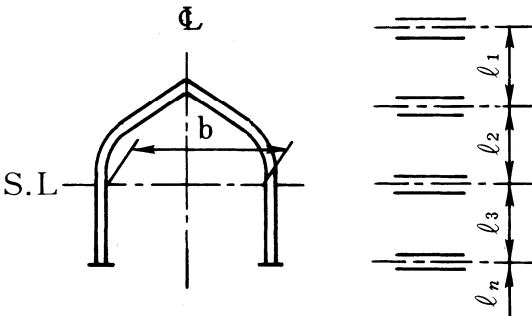
工 種		項 目		管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	道路トンネル (NATM)	支 保 工	幅(b)		⊖ 70	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			間隔(ℓ)	± 50	± 75	
		吹付コンクリート厚(T)			施工吹付厚 ≥設計吹付厚  ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長 50m毎に図に示す(1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定する。
		ロ ッ ク ボ ルト	位置間隔(L)			施工延長 50m毎に断面全本数を測定する。 (深さについては、残尺で管理する)
			角度(θ)			
			深さ(ℓ)			
			孔径(φ)			
		コン クリ ート 覆 工	基準高(V)	± 30	± 50	1. 基準高、幅、高さは施工延長 50mにつき1箇所測定する。 2. 巻厚 (イ)コンクリート打設前の巻立空間を、1打設長の終点を図に示す各点で測定、中間部はコンクリート打設口で測定する。
			幅(B)	⊖ 30	⊖ 50	
			巻厚(T)	⊖ 0	⊖ 0	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		破砕帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。
吹付厚で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
—	—	—		
—	基準高、幅、巻厚、高さ、施工延長	—		

工 種		項 目		管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
4 舗 装 工 事 ・ 道 路 改 良 工 事	道路トンネル (NATM)	コン クリ ート 覆 工	高さ(H)	⊖ 30	⊖ 50	(ロ)コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において図に示す各点で巻厚測定を行う。 (ハ)検測孔による巻厚の測定は図の(1)は50mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔により測定する。 (ニ)ただし、以下の場合には適用除外とする。 ①良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ②異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確保されている場合。 ③鋼製支保工、ロックボルトの突出。
			中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
				曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖150		

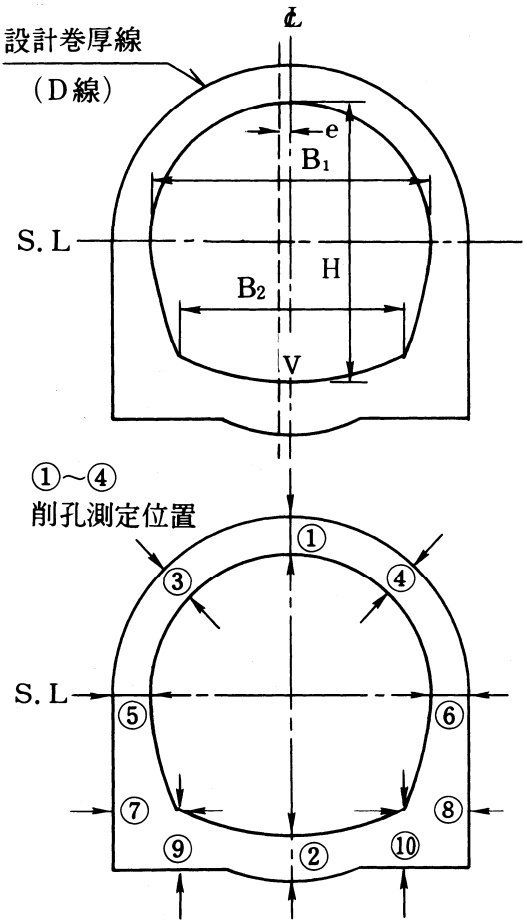
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		

工 種		項 目		管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
5	水路トンネル 水路 トンネル 工事	支 保 工	幅(b) (Bタイプ)		⊖ 0	幅、間隔は全基数について測定する。 支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工直前の2回とする。
			幅(b) (C、Dタイプ)		⊖ 40	
			間 隔 (ℓ)	⊕ 50	⊕ 75	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		<p>破碎帯等の特殊な地山における支保工管理については別途定めるものとする。</p> <p>吹付ロックボルト工法の吹付及びロックボルトは、道路トンネル (NATM) を参考とする。</p>



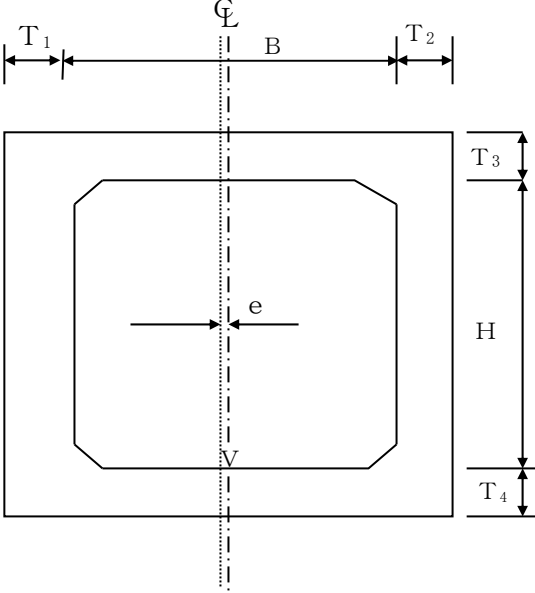
工 種		項 目		管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
5 水路トンネル工事	水路トンネル	コンクリート覆工	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	1. 基準高、幅、巻厚、高さについては1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 2. 巻 厚 (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ロ) コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継目)において図に示す①～⑩の各点で測定する。 (ハ) 削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所、②③④において100mにつき1箇所の割合で行う。 ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。
			幅(B)	⊕ 25	⊖ 40	
			巻厚(T)	⊖ 0	⊖ 0	
			高さ(H)	⊕ 25	⊖ 40	
			中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 100	
				曲線部 ⊕ 100	曲線部 ⊕ 150	
			施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、 巻厚、高さ、 中心線のズレで 20 点 以上のもの	左記のものと 20 点未満のもの及び 施工延長	—	 <p>設計巻厚線 (D 線)</p> <p>S. L.</p> <p>B<sub>1</sub></p> <p>B<sub>2</sub></p> <p>H</p> <p>V</p> <p>①～④ 削孔測定位置</p> <p>S. L.</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩</p>	

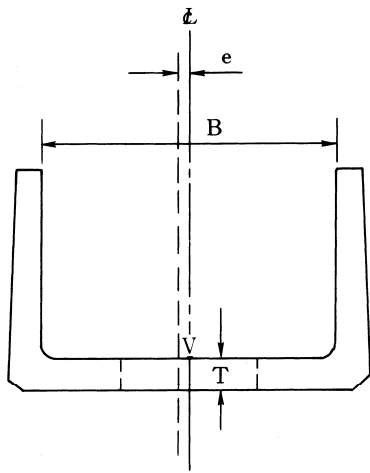
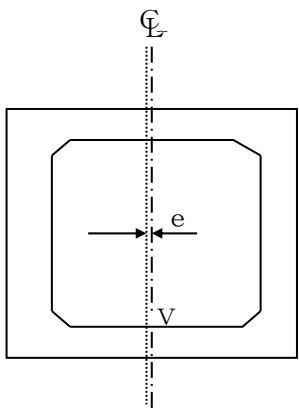
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
6 水路 工事	現場打開水路	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		幅(B)	⊕ 25 ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 15	⊖ 25	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		スパン長(L)	直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20	
			曲線部 ⊕ 20	曲線部 ⊕ 30	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
	現場打サイホン	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	上記と同一。
		幅(B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 13	⊖ 20	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		スパン長(L)	直線部 ⊕ 13	直線部 ⊕ 20	
			曲線部 ⊕ 20	曲線部 ⊕ 30	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を 9 m とした場合。
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を 9 m とした場合。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
6 水 路 工 事	現場打暗渠	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		幅(B)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		厚さ(T)	⊕ 20 ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 13	⊖ 20	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
		スパン長(L)	直線部 ⊕ 13 曲線部 ⊕ 20	直線部 ⊕ 20 曲線部 ⊕ 30	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長150m未満 ⊖ 150	

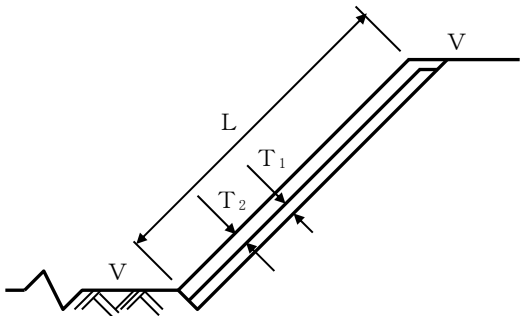
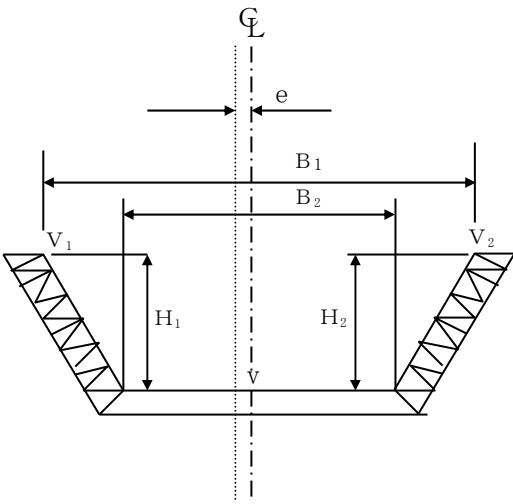
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		スパン長の標準を 9 m とした場合。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
6 水 路 工 事	鉄筋コンクリート大型フリーム	基準高 (V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。 幅、厚さについては施工延長 50mにつき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		幅 (B)	⊕ 25   ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ (T)	⊕ 20   ⊖ 15	⊖ 20	
		中心線のズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
	鉄筋コンクリート L 形水路	施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
	ボックスカルバート水路	基準高 (V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		中心線のズレ (e)	直線部 ⊕ 35	直線部 ⊕ 50	
			曲線部 ⊕ 65	曲線部 ⊕ 100	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

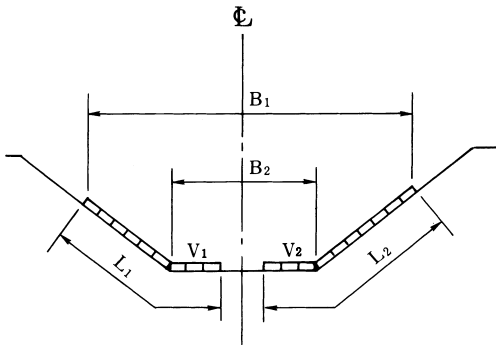
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		幅、厚さは L 形水路のみ測定する。
基準高、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長			



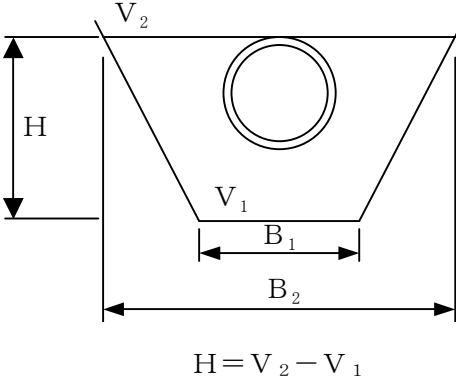
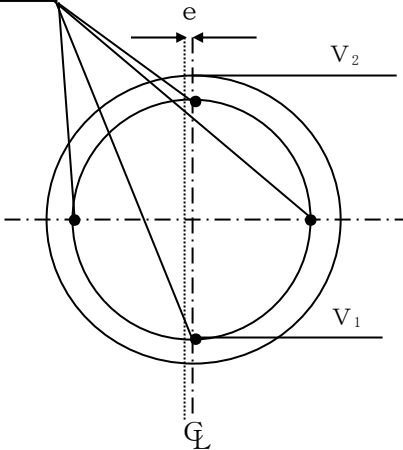
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
7 排 水 路 工 事 ・ 河 川 工 事	コンクリート 法覆工  アスファルト 法覆工	基準高 (V)	⊕ 30	⊕ 45	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		厚さ (T)	厚さ 10 cm未満 ⊕ 15 〃 10 cm以上 ⊕ 20	⊖ 20 ⊖ 30	
		法長 (L)	法長 2 m未満 ⊕ 30 〃 2 m以上 ⊕ 65	⊖ 50 ⊖ 100	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
	コンクリート ブロック積み 水路  鉄筋コンクリ ート柵渠	基準高 (V)	⊕ 30	⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mにつき 1 箇所の割合 で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 幅、高さについては施工 延長 50mにつき 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		幅 (B)	⊕ 25	⊖ 40	
		高さ (H)	⊕ 25	⊖ 40	
		中心線の ズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、厚さ、法長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		
基準高、幅、高さ、中心線のズレで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		幅、高さは柵渠には適用しない。

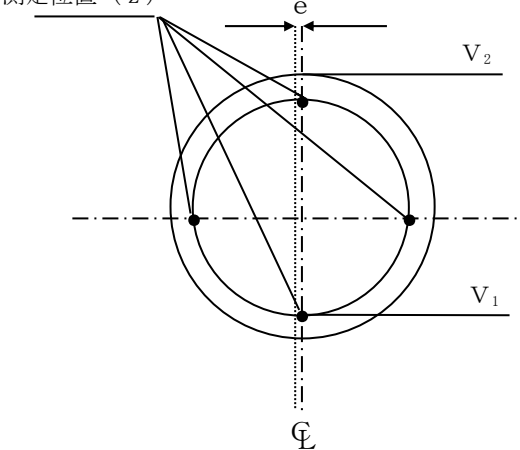
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
7 排 水 路 工 事 ・ 河 川 工 事	ライニング水路 連節ブロック コンクリート マット	基準高 (V)	⊕ 50	⊕ 75	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		幅 (B)	⊕ 50	⊖ 75	
		法長 (L)	法長 2 m 未満 ⊕ 30	⊖ 50	
			〃 2 m 以上 ⊕ 65	⊖ 100	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m 未満 ⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、法長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		布設時の値である。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管 体 基 礎 工 (砂基礎等)	幅(B)	⊖ 65	⊖ 100	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		高さ(H)	⊕ 20	⊕ 30	
	管水路 (遠心力鉄筋 コンクリート 管)  R C 管	基準高(V)	⊕ 20 ただし 被圧地下水のある場合 ⊕ 30	⊕ 30  ⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所の割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65	⊕ 100	
		ジョイント 間隔(z)	別表イ 参照	別表イ 参照	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	

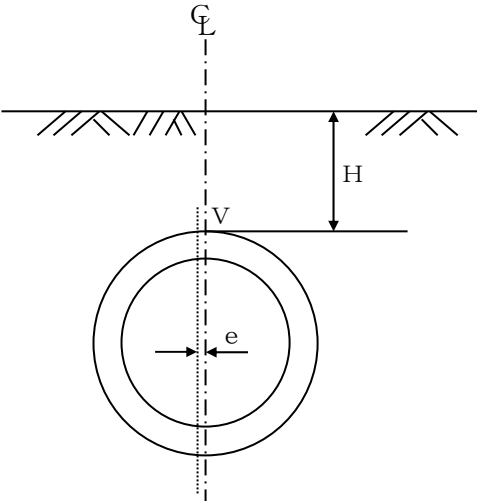
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
幅、高さで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—	 $H = V_2 - V_1$	基礎材が異なる場合は種類毎に測定する。高さ (H) の管理は、 $V_2 V_1$ で算出するものとする。
基準高、中心線のズレ、ジョイント間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p>  <p>基準高 (V) は、<math>V_1</math>、<math>V_2</math> のいずれか一方を測定し管理する。</p>	<p>V の測定は管底 (<math>V_1</math>) を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。</p> <p>ただし、<math>\phi 1,350</math> mm 以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (<math>V_2</math>) でもよい。</p> <p>e の測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。</p> <p>なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装 (表層、上層路盤、下層路盤) を除いた埋戻完了時点とする。</p>

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管水路 (ダクタイル 鋳鉄管) K形 U形 T形  (強化プラスチック複合管) B形、T形 C形	基準高(V)	⊕ 20 ただし 被圧地下水のある場合 ⊕ 30	⊕ 30  ⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所の割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65	⊕ 100	
		ジョイント 間隔(z)	別表ウ及び別表エ参照	別表ウ及び別表エ 参照	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	

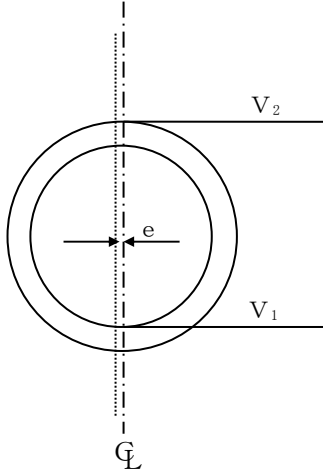
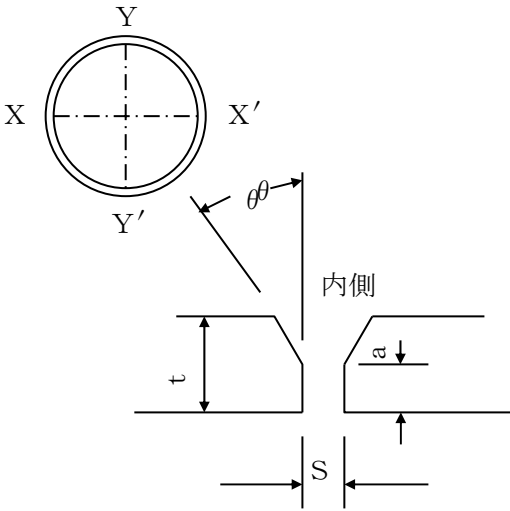
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの (様式3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ、ジョイント間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置 (z)</p>  <p>基準高 (V) は、<math>V_1</math>、<math>V_2</math>のいずれか一方を測定し管理する。</p>	<p>Vの測定は管底 (<math>V_1</math>)を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。 ただし、<math>\phi 1,350</math> mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (<math>V_2</math>)でもよい。 eの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。 なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。</p>



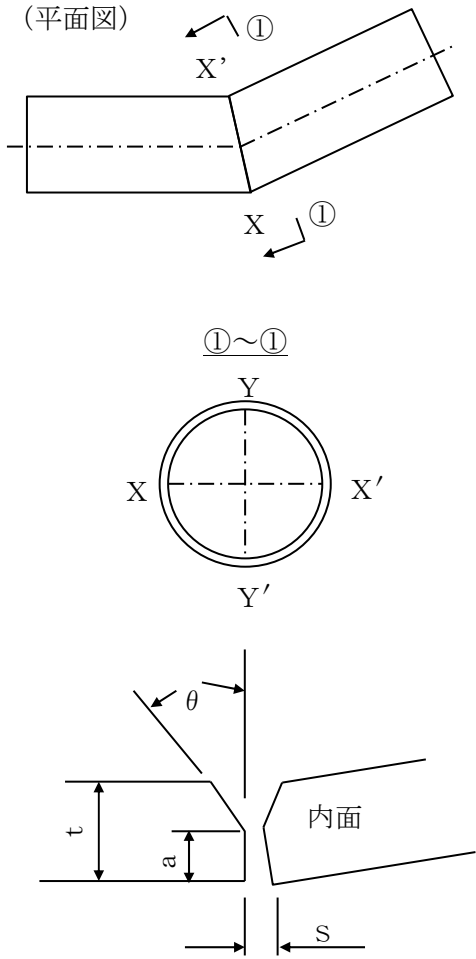
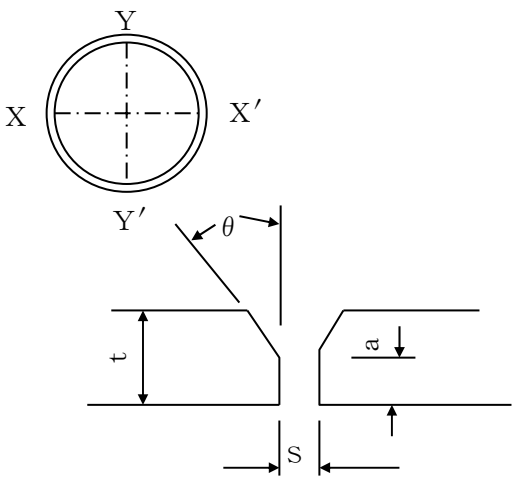
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管水路 (硬質ポリ塩 化ビニル管)	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	設計図書に示された基準高、あるいは埋設深、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき1箇所割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mにつき1箇所の割合で測定する。 上記未滿は2箇所測定する。
		埋設深(H)	⊕ 65 ⊖ 35	⊖ 50	
		中心線のズレ(e)	⊕ 80	⊕ 120	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未滿 ⊖ 200	
	管水路 (鋼管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。 管 種 J I S G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管ー第1部：直管) W S P A-101-2005 (農業用プラスチック被覆鋼管) 寸 法 80A～3500A 塗覆装方法 管 外 面 長寿命形プラスチック被覆とする。 管 内 面 エポキシ樹脂塗装とする。 なお、塗覆装方法の詳細は、別表カのとおりとする。 接 合 法 突き合わせ溶接継手とする。 工 法 通常の開削による布設工法とする。 管路の範囲 導水管、送水管及び配水管とし、配水池、ポンプなどの端部施設との接続部までとする。			

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、埋設深、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		
				通常の開削による布設工法とは、矢板土留・建込簡易土留を含むものとする。

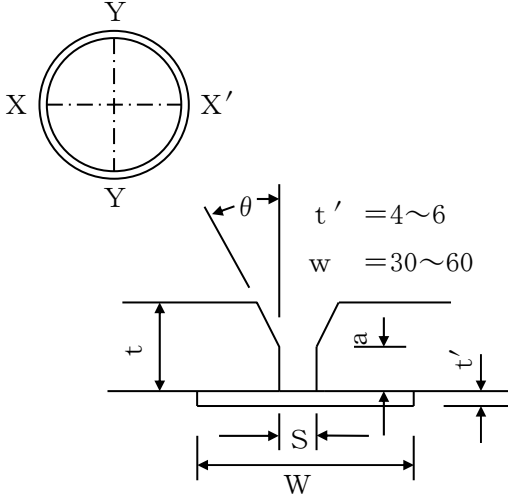
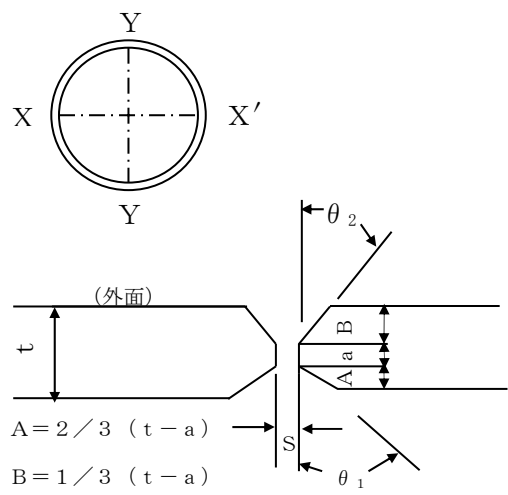
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管布設	基準高(V)	⊕ 20 ただし、 被圧地下水のある場合 ⊕ 30	⊕ 30  ⊕ 50	基準高、中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部)についてはおおむね 10mにつき 1 箇所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		中心線のズレ(e)	⊕ 30	⊕ 45	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
	V型開先 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0～3		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定する。  現場切り合わせの場合のみ全溶接箇所を測定する。
		ベベル 角度(θ)	30～35°		
		ルート フェイス (a)	≦2.4		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—		<p>Vの測定は管底 (<math>V_1</math>) を原則とし、測定時期は埋戻完了とする。</p> <p>ただし、<math>\phi 1,350</math> mm以下又は管底での測定作業が困難な場合は、管頂まで埋戻後の管頂 (<math>V_2</math>) でもよい。</p> <p>eの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。</p> <p>なお、「埋戻完了」とは、特に指示がない場合は舗装（表層、上層路盤、下層路盤）を除いた埋戻完了時点とする。</p>
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	V型開先テー パ付き直管 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0～3		テーパ付き直管同士の 溶接箇所全数を測定す る。
		ベベル 角度( $\theta$ )	Y、 Y' : 30～35° X' : 35～15° X : 30～50°		
		ルート フェイス (a)	$\leq 2.4$		
	V型開先 (片面溶接)	ルート ギャップ (s)	1～4		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。  現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ベベル 角度( $\theta$ )	30～35°		
		ルート フェイス (a)	$\leq 2.4$		

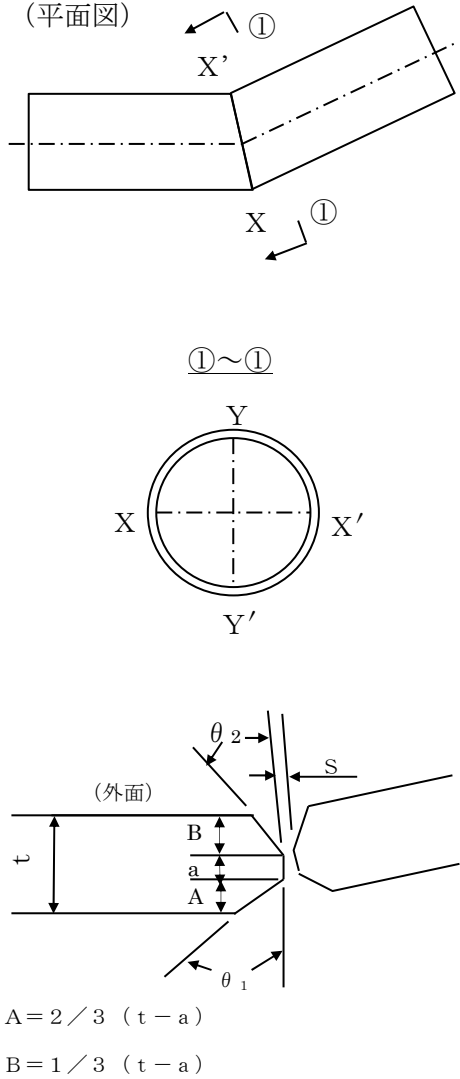
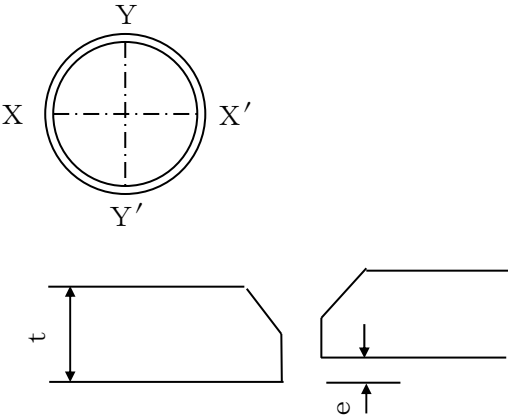
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p>(平面図)</p> 	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	V型開先 (片面裏当溶接)	ルート ギャップ (s)	4 以上		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定する。
		ベベル 角度(θ)	22.5～27.5°		現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ルート フェイス (a)	≤2.4		
	X型開先 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0～3		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定する。
		ベベル 角度 (θ <sub>1</sub> ) (θ <sub>2</sub> )	30～35° 40～45°		現場切り合わせの場合 のみ全溶接箇所を測定 する。
		ルート フェイス (a)	2 以下		

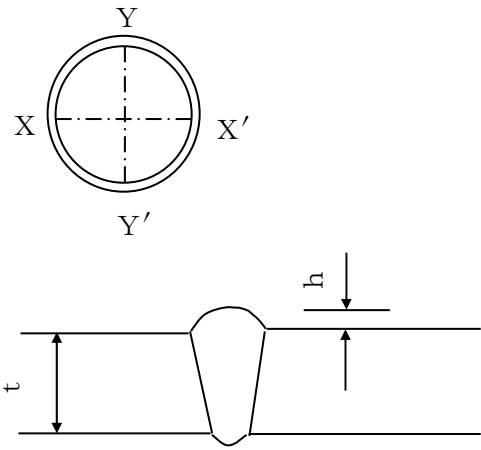
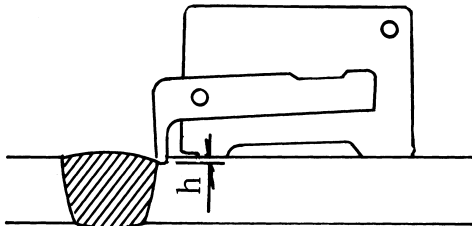
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
ルートギャップで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—		左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。



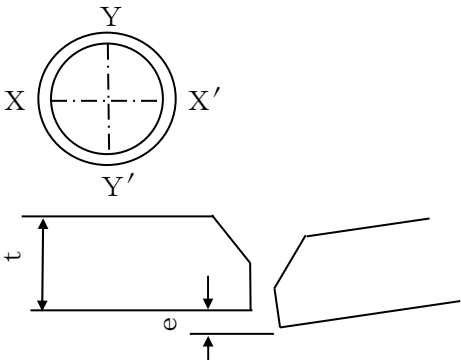
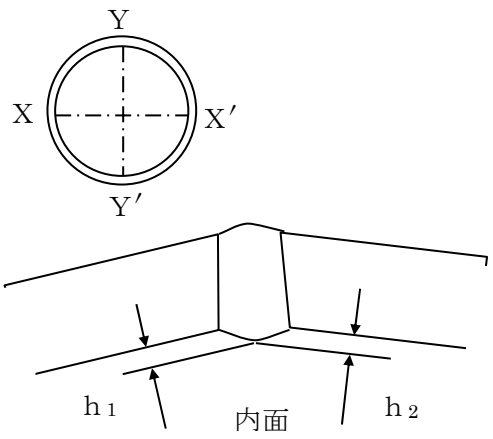
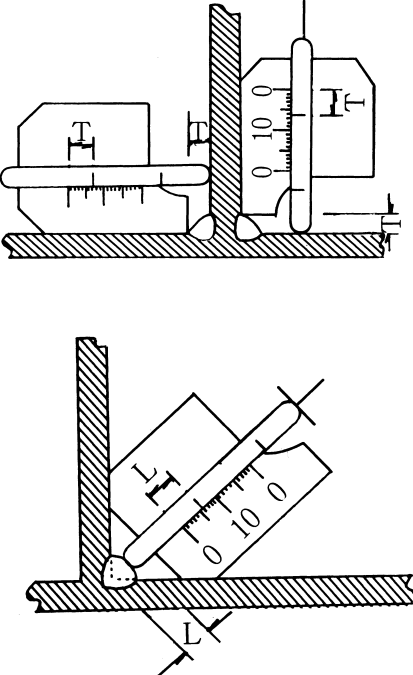
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	X型開先テー パ付き直管 (両面溶接)	ルート ギャップ (s)	0～3		テーパ付き直管同士の 溶接箇所全数を測定す る。
		ベベル 角度 ( $\theta_1$ ) ( $\theta_1$ ) ( $\theta_1$ ) ( $\theta_2$ ) ( $\theta_2$ ) ( $\theta_2$ )	Y、 Y' : 30～35° X' : 35～15° X : 30～50° Y、 Y' : 40～45° X' : 40～60° X : 45～25°		
		ルート フェイス (a)	2 以下		
	周継手溶接	目違ひ(e)  両面溶接        片面溶接	t : 板厚 t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 20 e ≤ 0.25t 20 < t ≤ 38 e ≤ 5.0  t ≤ 6 e ≤ 1.5 6 < t ≤ 16 e ≤ 0.25t 16 < t ≤ 38 e ≤ 4.0		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定す る。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
ルートギャップで 20 点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及びベベル角度、ルートフェイス	—	<p>(平面図)</p>  <p> <math>A = 2/3 (t - a)</math>  <math>B = 1/3 (t - a)</math> </p>	左記によらない場合は特別仕様書によるものとする。
目違い、余盛高で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		

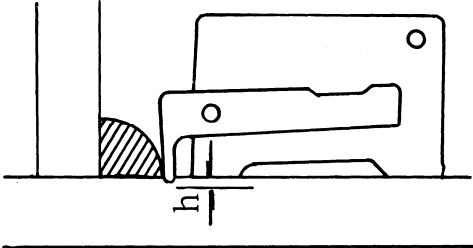
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	周継手溶接	余盛高(h)	t : 板厚 $t \leq 12.7$ $h \leq 3.2$ $t > 12.7$ $h \leq 4.8$		溶接箇所 10 箇所につき 1 箇所の割合で測定する。
		アンダ カット(h)	$h \geq 0.5$ は不合格。 $0.3 < h \leq 0.5$ は、1 個の長さ 30 mm (内側にあつては 50 mm) を越えるもの、又は合計長さが管の円周長さの 15% を越えるものは不合格。 $h \leq 0.3$ は合格。		1 箇所毎に全円周を目視により点検し、懸念のある部分はゲージにより点検する。
		ビード外 観	ビード表面に極端な不揃い部分があつてはならない。		1 箇所毎に全円周を目視により点検する。
		その他	溶接部及びその付近には、割れ、アークストライクの跡、有害と認められる程度のオーバーラップ、ピット、ジグ跡などの欠陥があつてはならない。		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
				
—	—	○		

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	周継手溶接テーパ付き直管	目 違 い (e)	t : 板厚		テーパ付き直管同士の溶接箇所全数を測定する。
		両面溶接	$t \leq 6 \quad e \leq 1.5$ $6 < t \leq 20 \quad e \leq 0.25t$ $20 < t \leq 38 \quad e \leq 5.0$		
		余盛高(h)	t : 板厚 $t \leq 12.7 \quad h \leq 3.2$ $t > 12.7 \quad h \leq 4.8$  ただし $h = (h_1 + h_2) / 2$		
	すみ肉溶接	脚長(T)	指定脚長を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの 5 % 以下で -1.0 mm までは認める。		溶接線全長にわたって目視により点検し、懸念のある部分はゲージにより点検する。
		のど厚(L)	指定のど厚を下回ってはならない。 ただし、1 溶接線の長さの 5 % 以下で -0.5 mm までは認める。		

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
目違い、余盛高で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		
				
—	—	○		

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	すみ肉溶接	アンダ カット(h)	0.5<h<1.0 の時アン ダカットの長さが板厚 よりも大きいものがあ ってはならない。 h≥1.0 のアンダカッ トはあってはならない。		溶接線全長にわたって 目視により点検し、懸念 のある部分はゲージに より点検する。
		ピット	ピットの直径が1mm以 下では溶接長さ1mに つき3個までを許容す る。 しかし直径が1mmを超 えるものがあってはな らない。		
		ビード外 観	ビード表面に極端な不 揃い部分があってはな らない。		溶接線全長にわたって 目視により点検する。
		その他	溶接部及びその付近に は、割れ、アークスト ライクの跡、有害と認 められる程度のオーバ ラップ、ジグ跡などの 欠陥があってはな らない。		
	放射線透過試 験	別表オ参 照	別表オの判定基準参照		周継手溶接の場合、全溶 接線長の5%を撮影す るものとする。 すみ肉溶接の場合は特 別仕様書による。
	素地調整	外観	水分、錆、油等があっ てはならない。		現場塗装全面を点検す る。

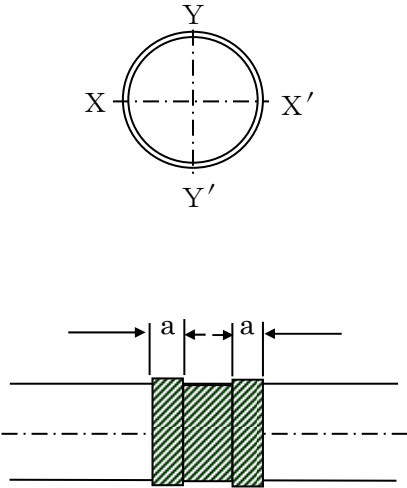
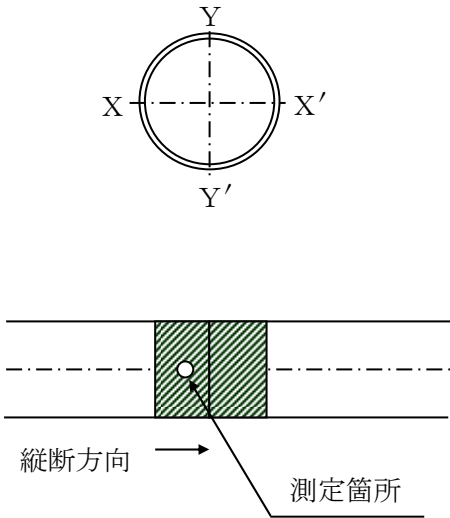
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
—	—	○		
—	—	○		全溶接線長とは、溶接箇所全ての溶接線長の総計をいう。
—	—	○		



工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	エポキシ樹脂 塗装	外観	塗装表面に異物の混入、塗りむら、塗りもれなどがあってはならない。		現場塗装全面を点検する。
		膜厚	最低膜厚は、別表カ又は特別仕様書に規定する膜厚を下回ってはならない。		現場塗装箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 12 点測定する。(天地左右、縦断方向に各 3 点)
		ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。		現場塗装全面を点検する。
		付着性	付着不良の欠陥があってはならない。		

管 理 方 式			測定箇所標準位置図及び測定要領	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-2)	点検表によるもの (様式 3-3)		
—	—	○		JIS G 3443-4 に準じる。
膜厚で20点 以上のもの	左記のもの で20点未満 のもの	—		
—	—	○	ホリデーディテクターを用いてピンホール 検査を行う。 標準試験電圧	
			塗膜の厚さ(mm)	試験電圧(DC V)
			0.5 以上	2,000～2,500
—	—	○	柄のついた鋼製両刃のへら(全長約 200 mm程 度)を用いてはつき、付着の良否を点検する。	

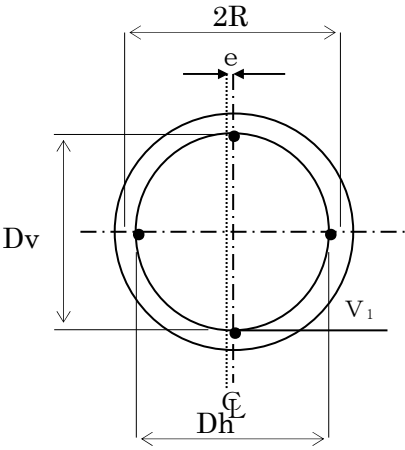
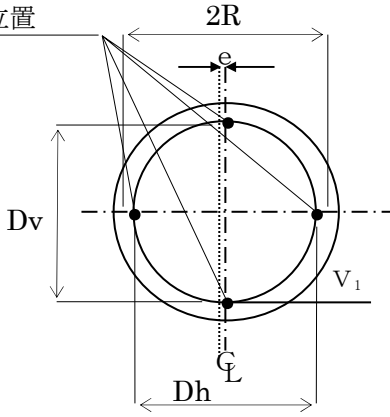
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	ジョイントコート	焼損	あってはならない。		ジョイントコート全数を点検する。
		両端のめくれ	有害な欠陥となる大きなめくれがあってはならない。		
		ふくれ	ジョイントコートの両端から 50mm 以内にふくれがあってはならない。		
		工場被覆部との重ね代(a)	片側 50 mm 以上		
	膜厚	ピンホール	火花の発生するような欠陥があってはならない。		ジョイントコート全数全面を点検する
			別表カのとおり 1.5mm 以上 ただし、加熱収縮後の厚さとする。		ジョイントコート施工箇所 10 箇所につき 1 箇所測定するものとし、1 箇所につき 4 点測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式3-2)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	○		
—	—	○	<p>ホリデーディテクターを用いてピンホール検査を行う。試験電圧は 10,000～12,000V を標準とする。</p>	
膜厚で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		

工 種		項 目	管理基準値(mm)		(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	管水路 (埋設とう性管)	管種等の適用範囲は原則として下記による。				
		管 種				
	ダクタイル鋳鉄管	J I S J D P A	G 5526(ダクタイル鋳鉄管) G 1027(農業用水用ダクタイル鋳鉄管)			
	鋼管	J I S W S P	G 3443-1(水輸送用塗覆装鋼管-第 1 部：直管) A-101(農業用プラスチック被覆鋼管)			
	強化プラスチック管	J I S F R P M	A 5350(強化プラスチック複合管) K 111-2016 (強化プラスチック複合管内圧管 フィラメントワインディング成形法)			
たわみ率		締 固 め 程 度	なし  I  I 礫質土  II	⊕ 3 %  ⊕ 3 %  ⊕ 4 %  ⊕ 4 %	⊕ 5 %  ⊕ 5 %  ⊕ 5 %  ⊕ 5 %	施工延長おおむね 50 mにつき 1 箇所の割 合で測定する。 上記未満は 2 箇所測 定する。 測定は定尺管の中央 部とする。 測定時期は管据付時 (接合完了後)、管頂埋 戻時及び埋戻完了時 とする。 なお、「埋戻完了」と は、特に指示がない場 合は舗装（表層、上層 路盤、下層路盤）を除 いた埋戻完了時点と する。

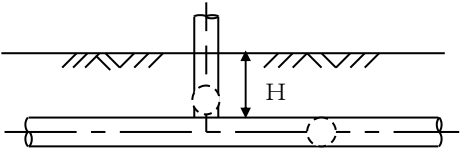
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要												
管理図表によるもの (様式 3-5)	結果一覧表によるもの (様式 3-5)	構造図に朱記、併記するもの														
			<p>管据付時の測定の際、以下の手順で天・地・左・右の各測定基準点を固定し、以後同一点でたわみ量を測定する。</p> <p>① 測定しようとする管の管中央位置を管底及び左右管側にペイントでマーキングする。</p> <p>② その位置に水準器を下図のように水平におく。その後、水準器の中央点を管にマーキングする。</p> <p>③ ②でマーキングした点に測定棒を立て、測定棒に水準器を添わせて測定棒を垂直にし、その状態で測定棒をスライドさせ測定棒と管の接点をマーキングする(管天測点となる)。</p> <p>④ ①でマーキングした位置(左右管側)に下図のように水準器を使って水平点をマーキングする。</p> <div><p>○ 測定器具例 (インナーゲージ)</p><p>パイプ① アルミパイプ外径φ35mm厚み 3mm パイプ② アルミパイプ外径φ28mm厚み 3mm</p><p>スケール取付け部</p><p>1mm単位スケール</p></div> <tr><td>各測定時期 で20点以上 のもの</td><td>左記のもの で20点未満 のもの</td><td>—</td><td><div><p>たわみ率の計算 <math display="block">\Delta X / 2R \times 100 (\%)</math><math display="block">\Delta X = [2R - (Dh + t)] \text{ 又は } [2R - (Dv + t)]</math><p>2R : 管厚中心直径 t : 管厚</p></p></div></td><td><p>管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p><p>締固め程度は次のとおりである。</p><table><tr><th>締固めの程度</th><th>仕上り程度</th></tr><tr><td>締固めなし</td><td>締まった状態を指し示す膨張状態ではない</td></tr><tr><td>締固めⅠ</td><td>締固め度の85%以上</td></tr><tr><td>締固めⅡ</td><td>締固め度の90%以上</td></tr></table></td></tr>	各測定時期 で20点以上 のもの	左記のもの で20点未満 のもの	—	<div><p>たわみ率の計算 <math display="block">\Delta X / 2R \times 100 (\%)</math><math display="block">\Delta X = [2R - (Dh + t)] \text{ 又は } [2R - (Dv + t)]</math><p>2R : 管厚中心直径 t : 管厚</p></p></div>	<p>管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p> <p>締固め程度は次のとおりである。</p> <table><tr><th>締固めの程度</th><th>仕上り程度</th></tr><tr><td>締固めなし</td><td>締まった状態を指し示す膨張状態ではない</td></tr><tr><td>締固めⅠ</td><td>締固め度の85%以上</td></tr><tr><td>締固めⅡ</td><td>締固め度の90%以上</td></tr></table>	締固めの程度	仕上り程度	締固めなし	締まった状態を指し示す膨張状態ではない	締固めⅠ	締固め度の85%以上	締固めⅡ	締固め度の90%以上
各測定時期 で20点以上 のもの	左記のもの で20点未満 のもの	—	<div><p>たわみ率の計算 <math display="block">\Delta X / 2R \times 100 (\%)</math><math display="block">\Delta X = [2R - (Dh + t)] \text{ 又は } [2R - (Dv + t)]</math><p>2R : 管厚中心直径 t : 管厚</p></p></div>	<p>管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p> <p>締固め程度は次のとおりである。</p> <table><tr><th>締固めの程度</th><th>仕上り程度</th></tr><tr><td>締固めなし</td><td>締まった状態を指し示す膨張状態ではない</td></tr><tr><td>締固めⅠ</td><td>締固め度の85%以上</td></tr><tr><td>締固めⅡ</td><td>締固め度の90%以上</td></tr></table>	締固めの程度	仕上り程度	締固めなし	締まった状態を指し示す膨張状態ではない	締固めⅠ	締固め度の85%以上	締固めⅡ	締固め度の90%以上				
締固めの程度	仕上り程度															
締固めなし	締まった状態を指し示す膨張状態ではない															
締固めⅠ	締固め度の85%以上															
締固めⅡ	締固め度の90%以上															

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
8 管 水 路 工 事	シールド工事 (一次覆工) コンクリート セグメント 鋼製セグメント	基準高(V)	⊕ 30	⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)、たわみ率につ いては施工延長おおむ ね 50mにつき 1 箇所の 割合で測定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所の割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		中心線の ズレ(e)	直線部 ⊕ 65 曲線部 ⊕ 100	直線部 ⊕ 100 曲線部 ⊕ 150	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
		たわみ率	⊕ 3%	⊕ 5%	
	シールド工事 (二次覆工) 既製管覆工  推進工事	基準高(V)	<u>既製管挿入工</u> ⊕ 20 <u>推進工事</u> ⊕ 30	⊕ 30 ⊕ 50	基準高、中心線のズレ (直線部)については施 工延長おおむね 50mに つき 1 箇所の割合で測 定する。 中心線のズレ(曲線部) についてはおおむね 10 mに 1 箇所の割合で測 定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。 ジョイント間隔につい ては 1 本毎に測定する。
		中心線の ズレ(e)	⊕ 65	⊕ 100	
		ジョイン ト 間 隔 (Z)	別表イ、ウ及び別表エ 参照	別表イ、ウ及び別 表オ参照	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 200m未満 ⊖ 200	
		たわみ率	⊕ 3%	⊕ 5%	施工延長おおむね 50m につき 1 箇所を測定す る。 上記未満は 2 箇所測定 する。 測定時期は、管据付時、 注入完了時とする。

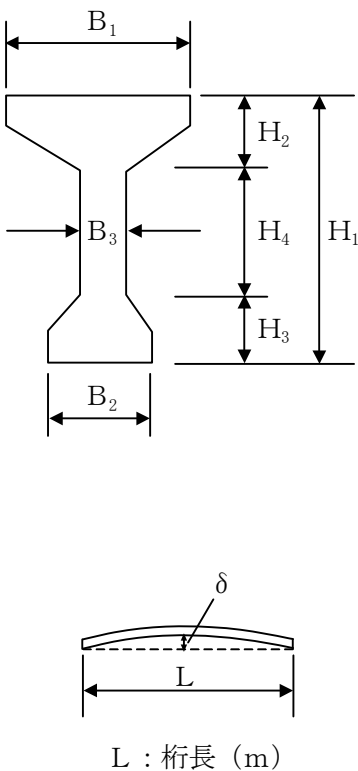
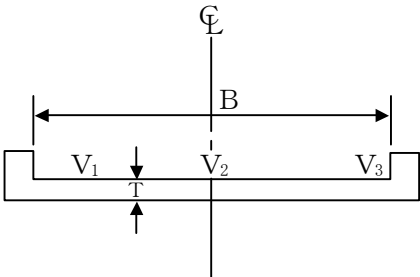
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4、3-5)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4、3-5)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、中心線のズレ、たわみ率で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	 <p>基準高 (V) は、<math>V_1</math> を測定し管理する。 たわみ率の計算  <math>\Delta X / 2R \times 100 (\%)</math>  <math>\Delta X = [2R - (Dh + t)]</math> 又は  <math>[2R - (Dv + t)]</math>  <math>2R</math> : 管厚中心直径  <math>t</math> : 管厚</p>	V の測定は管底 ( $V_1$ ) を原則とし、測定時期は完了時とする。
基準高、中心線のズレ、たわみ率で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	—	<p>ジョイント間隔 測定位置</p>  <p>基準高 (V) は、<math>V_1</math> を測定し管理する。 たわみ率の計算  <math>\Delta X / 2R \times 100 (\%)</math>  <math>\Delta X = [2R - (Dh + t)]</math> 又は  <math>[2R - (Dv + t)]</math>  <math>2R</math> : 管厚中心直径  <math>t</math> : 管厚</p>	V の測定は管底 ( $V_1$ ) を原則とし、測定時期は完了時とする。



工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
9 畑 か ん 施 設 工 事	スプリンクラー	埋設深(H)	⊕ 65   ⊖ 35	⊖ 50	構造図の寸法標示箇所を測定する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
埋設深で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		

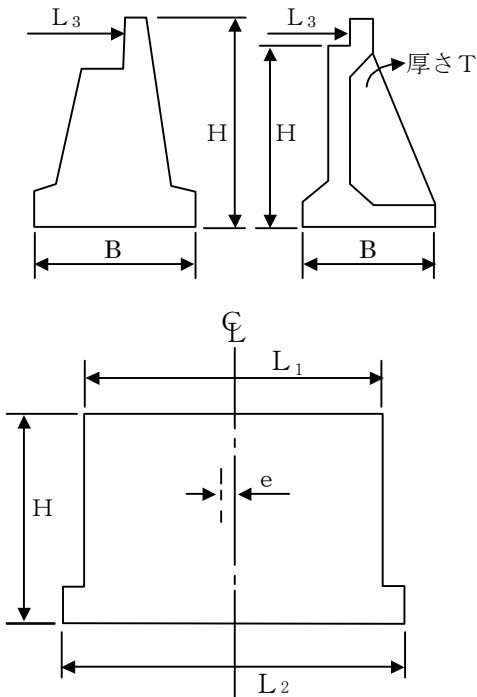
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
10 橋 梁 工 事	コンクリート桁 〔ポストテンション桁〕	幅(B)	上幅 (B <sub>1</sub> ) ⊕ 7 ⊖ 3 下幅 (B <sub>2</sub> 、B <sub>3</sub> ) ⊕ 3	⊕ 10 ⊖ 5 ⊕ 5	幅、高さについては桁の両端部、中央部の3箇所を全桁数測定する。 桁長は各桁で、横方向の最大曲がりについてはプレストレッシング後に、全桁数測定する。
		高さ(H)	⊕ 7 ⊖ 3	⊕ 10 ⊖ 5	
		桁長(L)	⊕ 10	⊕ 15	
		横方向の最大曲がり(δ) (桁長 10.5m 未満)		1.5L-6	
	鉄筋コンクリート床版工	横方向の最大曲がり(δ) (桁長 10.5m 以上)		10	基準高は1径間当たり2箇所(支点付近)で測定する。 幅は1径間当たり3箇所測定する。 厚さは、おおむね10㎡に1箇所の割合で測定する。
		基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	
		幅(B)	⊕ 20	⊕ 30	
		厚さ(T)	⊕ 13 ⊖ 7	⊕ 20 ⊖ 10	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	幅、高さ、桁長、横方向の最大曲がり	 <p>L : 桁長 (m)</p>	
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ		コンクリート橋に適用する。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
10 橋 梁 工 事	鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 高 欄 及 び 地 覆 工	高欄幅 (B)	⊕ 13	⊖ 20	1 径間当たり両端と中 央部の両側を測定する。
		高欄高さ (H)	⊕ 20	⊖ 30	
		地覆幅 (B)	⊕ 13	⊖ 20	
		地覆高さ (H)	⊕ 13	⊖ 20	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	高欄幅、高欄高さ、地覆幅、地覆高さ	<p>The diagrams illustrate the standard measurement points for two types of safety features. On the left, a railing (高欄) is shown with its width labeled 'B' and its height labeled 'H'. On the right, ground cover (地覆) is shown with its width labeled 'B' and its height labeled 'H'.</p>	

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
11 橋 梁 下 部 工 事	橋台工	敷幅(B)	⊕ 30	⊖ 50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。
		控壁の厚さ(T)	⊕ 20   ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 30	⊖ 50	
		中心線のズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50	
		天端長(L <sub>1</sub> )	⊕ 30	⊖ 50	
		敷長(L <sub>2</sub> )	⊕ 30	⊖ 50	
		胸壁間距離(L <sub>3</sub> )	⊕ 20	⊕ 30	
	橋台沓部	「1 共通工事の精度を要するもの」の項に定めるところによる		同                      左	同                      左

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	敷幅、控壁の厚さ、高さ、中心線のズレ、天端長、敷長、胸壁間距離		2 スパン以上の場合の胸壁間距離は「橋脚工」の橋脚中心間距離において管理する。
同 左	同 左	同 左	同 左	



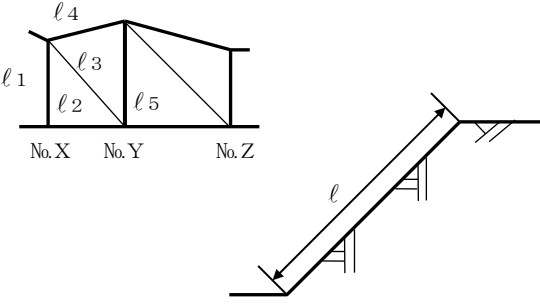
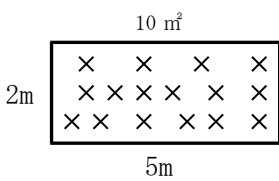
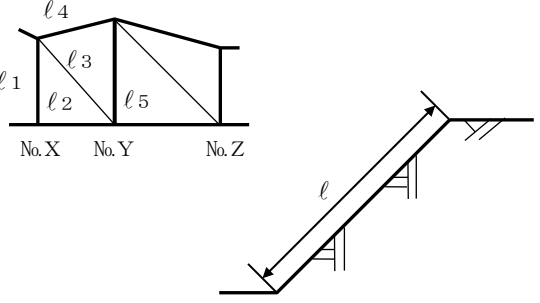
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工 〔張出式 重力式 半重力式〕	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部で測定し、その他は構造図の寸法表示箇所を測定する。
		天端長( $\ell_1$ )	⊕ 30	⊖ 50	
		敷長( $\ell_2$ )	⊕ 30	⊖ 50	
		天端幅(B <sub>1</sub> )	⊕ 20   ⊖ 13	⊖ 20	
		敷幅(B <sub>2</sub> )	⊕ 30	⊖ 50	
		高さ(H)	⊕ 30	⊖ 50	
		橋脚中心 間 距 離 (L)	⊕ 20	⊕ 30	
		中心線の ズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、天端長、敷長、天端幅、敷幅、高さ、橋脚中心間距離、中心線のズレ	<p>The diagrams illustrate standard measurement points for a bridge pier. The top row shows two side views of a bridge pier. The left view shows dimensions L (length), B<sub>1</sub> (top width), V (vertex), B<sub>3</sub> (bottom width), B<sub>2</sub> (base width), H<sub>2</sub> (height from top to vertex), H<sub>1</sub> (height from vertex to base), H<sub>4</sub> (height from base to top of pier), and H<sub>3</sub> (height from base to bottom of pier). The right view shows dimensions L, B<sub>1</sub>, V, B<sub>3</sub>, B<sub>2</sub>, H<sub>2</sub>, H<sub>1</sub>, H<sub>4</sub>, H<sub>3</sub>. The bottom row shows two plan views of a bridge pier. The left view shows dimensions l<sub>1</sub> (top width), e (offset), l<sub>3</sub> (bottom width), l<sub>2</sub> (base width), H<sub>2</sub> (height from top to vertex), H<sub>1</sub> (height from vertex to base), H<sub>4</sub> (height from base to top of pier), and H<sub>3</sub> (height from base to bottom of pier). The right view shows dimensions l<sub>1</sub>, e, l<sub>3</sub>, l<sub>2</sub>, H<sub>2</sub>, H<sub>1</sub>, H<sub>4</sub>, H<sub>3</sub>.</p>	

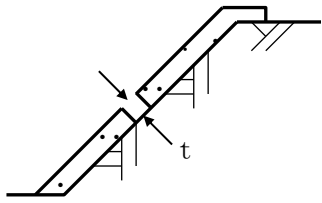
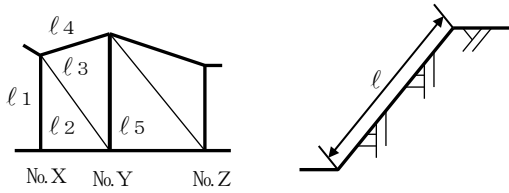
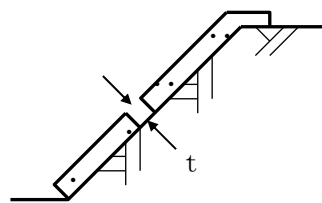
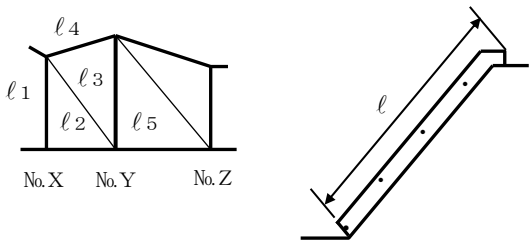
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
11 橋 梁 下 部 工 事	橋脚工 (ラーメン式)	基準高(V)	⊕ 15	⊕ 20	橋軸方向の断面寸法は 中央及び両端部で測定 し、その他は構造図の寸 法表示箇所を測定する。
		天 端 長 (ℓ)	⊕ 15	⊖ 20	
		天端幅 (B <sub>1</sub> )	⊕ 20   ⊖ 13	⊖ 20	
		中間幅(d)	⊕ 15	⊖ 20	
		基礎幅 (B <sub>2</sub> 、b)	⊕ 30	⊖ 50	
		高さ(H)	⊕ 30	⊖ 50	
		厚さ(T)	⊕ 20   ⊖ 13	⊖ 20	
		橋脚中心 間 距 離 (L)	⊕ 20	⊕ 30	
		中心線の ズレ(e)	⊕ 30	⊕ 50	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、天端長、天端幅、中間幅、基礎幅、高さ、厚さ、橋脚中心間距離、中心線のズレ		

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	ラス張 植生マット 植生シート 繊維ネット 張芝 人工張芝	面積(A)		施工面積 $\geq$ 設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。
		アンカー ピン数		ラス張 $\phi 9 (D10) \times L = 200 \text{ mm}$ 1.5 本/㎡以上 $\phi 16 (D16) \times L = 400 \text{ mm}$ 0.3 本/㎡以上	ラス張は 200 ㎡に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		アンカー ピン及び 止め釘		植生マット、繊維ネット 肥料袋付 6 本/㎡以上 肥料袋無 3 本/㎡以上	植生マット及び繊維ネ ットは 500 ㎡に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
	種子散布	面積(A)		施工面積 $\geq$ 設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。

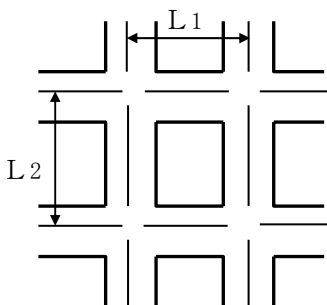
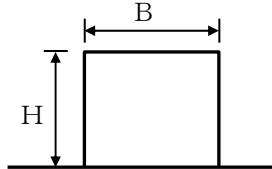
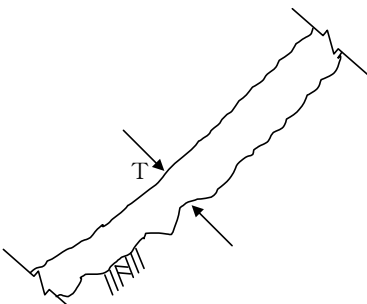
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	展開図及び測線長		$\ell_n$ : 測線をいう。
—	測定値を記入	—		(参考) 規格値に示す値は標準であることから、工法により標準本数が異なる場合は、別途監督職員と協議する。
—	—	展開図及び測線長		$\ell_n$ : 測線をいう。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
12 法 面 保 護 工 事	客土吹付	厚さ(T)		平均厚さ≧設計厚さ  ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。	施工面積 500 m <sup>2</sup> に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		面積(A)		施工面積≧設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。
	植生基材吹付	厚さ(T)		平均厚さ≧設計厚さ  測定値は 設計厚 5 cm未満      ⊖ 10% 〃      5 cm以上      ⊖ 20%  ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上とする。	施工面積 200 m <sup>2</sup> に 1 箇所 の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定する。
		面積(A)		施工面積≧設計面積	全施工面積について展開図又はその他の方法により測定(求積)する。

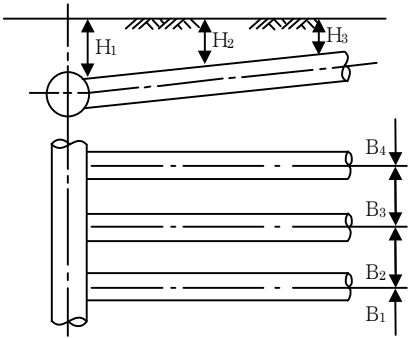
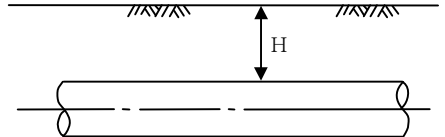
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。 3 設計吹付厚さ5 cm以上には適用しない。
—	—	展開図及び測線長		$\ell_n$ : 測線をいう。
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		1 吹付直後の厚さとする。 2 岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。
—	—	展開図及び測線長		$\ell_n$ : 測線をいう。



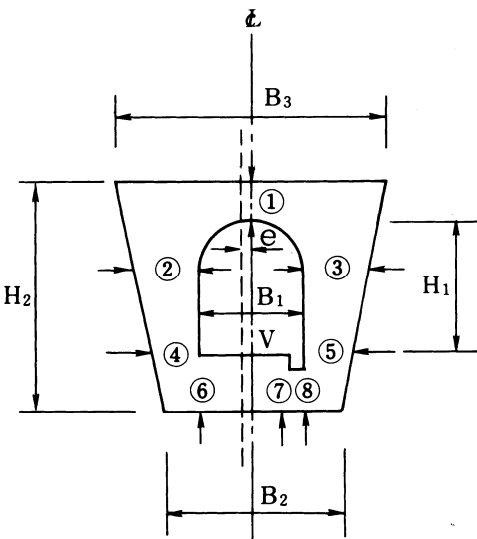
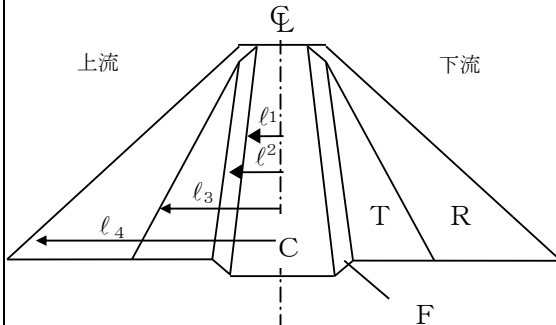
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
12	吹付枠	梁延長		施工延長 $\geq$ 設計延長	全施工延長について展開図により測定する。
		梁間隔 (L)		$\pm L/10$	施工面積 200 m <sup>2</sup> に 1 箇所 の割合で測定する。
		梁断面(H) (B)		$\ominus 20$	施工面積 200 m <sup>2</sup> に 1 箇所 の割合で測定する。
	コンクリート 吹付 モルタル吹付	吹付厚さ (T)	設計厚 5 cm未満 $\pm 7$  " 5 cm 以上 $\pm 15$	$\ominus 10$  $\ominus 20$ (ただし、吹付面に凹凸 がある場合の最小吹付 厚は、設計厚の 50%以上 とし、平均厚は設計厚以上。)	施工面積おおむね100m <sup>2</sup> につき 1 箇所の割合で コア採取又は削孔など して測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	—	展開図に朱記、併記する		
間隔で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
断面で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		
厚さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	—		施工端部、岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
13 暗 渠 排 水 工 事	吸水渠	布設深 (H)	⊕ 100   ⊖ 50	⊖ 75	上、下流端の2箇所を測定する。 ただし、1本の布設長がおおむね100m以上のときは、中間点を加えた3箇所を測定する。
		間隔(B)	⊕ 500	⊕ 750	
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 500m以下⊖1,000	
	集水渠(支線) 導水渠(幹線)	布設深 (H)	⊕ 100   ⊖ 50	⊖ 75	施工延長おおむね50mにつき1箇所の割合で測定する。
		施工延長		⊖ 0.2%、 ただし延長 500m以下⊖1,000	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
布設深、間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram illustrates measurement standards for two types of pipes. The top part shows a sloped pipe with three measurement points labeled <math>H_1</math>, <math>H_2</math>, and <math>H_3</math> measured from the ground surface. The bottom part shows a vertical pipe with four measurement points labeled <math>B_1</math>, <math>B_2</math>, <math>B_3</math>, and <math>B_4</math> measured from the bottom.</p>	
布設深で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	 <p>The diagram illustrates a measurement standard for a horizontal pipe. A single measurement point labeled <math>H</math> is shown, measured from the ground surface to the top of the pipe.</p>	

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
14 フ ィ ル ダ ム 工 事	監査廊 (暗渠タイプ)	基準高(V)	± 20	± 30	1. 基準高、幅、厚さ、高さについては1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 2. 厚さはコンクリート打設前の巻立空間を1スパンの終点において図に示す①～⑧の各点で測定する。 3. 中心線のズレ 直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		幅(B)	⊕ 25   ⊖ 15 ただし、 B <sub>2</sub> 、B <sub>3</sub> ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ(T)	⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 25 ただし、 H <sub>2</sub> ⊖ 25	⊖ 40	
		中心線のズレ(e)	直線部   ⊕ 50	直線部   ⊕ 75	
			曲線部   ⊕ 100	曲線部   ⊕ 150	
		スパン長	直線部   ⊕ 13	直線部   ⊕ 20	
			曲線部   ⊕ 20	曲線部   ⊕ 30	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	
	堤体盛土	ゾ ー ン 幅	遮水ゾーン	ℓ <sub>1</sub> ⊕ 500 ⊖ 0	ゾーン幅については施工延長おおむね20mにつき1箇所の割合で測定する。
			フィルターゾーン	ℓ <sub>2</sub> ⊕ 500 ⊖ 0 有効幅Bは設計以上	
			トランジションゾーン	ℓ <sub>3</sub> ⊕1,000⊖ 500	
			ロックゾーン	ℓ <sub>4</sub> ⊕1,000⊖ 0 有効幅Bは設計以上	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、 2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—		
ゾーン幅で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—	 <p>注) ゾーン区分  C : 遮水ゾーン  F : フィルターゾーン  T : トランジションゾーン  R : ロックゾーン</p> <p>有効幅</p>	1 堤体表面張立(張石)状態に適用する。 2 ゾーン幅とはダム中心線から設計境界線までの距離( $\ell$ )と各ゾーン単独有効幅( $B$ )をいう。 3 管理基準値については別途定めるものとする。 4 各リフト毎の盛立高の管理基準値については別途定めるものとする。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
14 フ イ ル ダ ム 工 事	洪水吐	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長 1 スパンにつき 1 箇所の割合で測定する。 中心線のズレ(直線部)については施工延長おおむね 50mにつき 1 箇所の割合で測定する。 なお、中心線のズレ(曲線部)については 1 スパンにつき 1 箇所の割合で測定する。
		幅(B)	⊕ 25    ⊖ 15	⊖ 25	
		厚さ(T)	⊕ 20    ⊖ 13 ただし、 T <sub>1</sub> ～T <sub>9</sub> ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 15	⊖ 25	
		中心線のズレ(e)	直線部 ⊕ 35  曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50  曲線部 ⊕ 100	
		スパン長	直線部 ⊕ 13  曲線部 ⊕ 20	直線部 ⊕ 20  曲線部 ⊕ 30	
		施工延長		⊖ 0.1%、 ただし延長 150m未満 ⊖ 150	

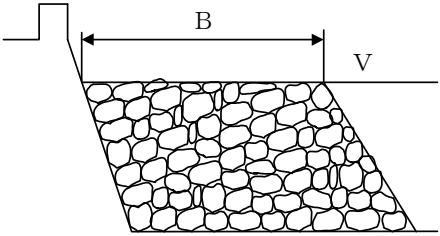
管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	—	<p>*斜線部はインバート</p>	インバートと側壁が一体構造の場合、測定箇所は別途定めるものとする。



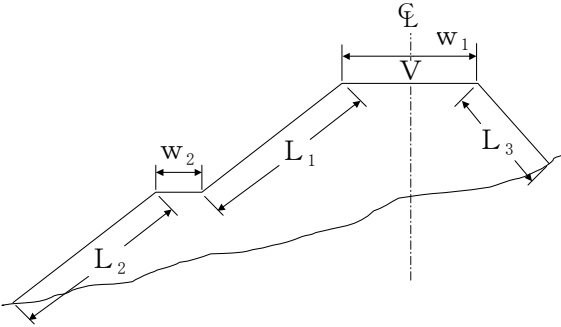
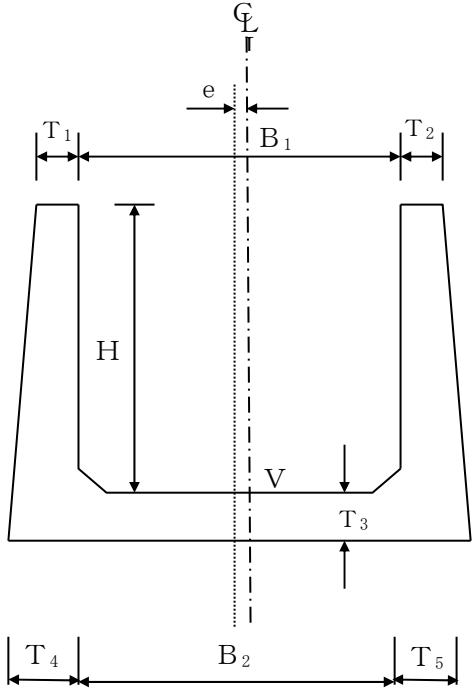
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
15 頭 首 工 工 事	本体	基準高(V)	± 20	± 30	構造図の寸法表示箇所 を測定する。
		幅(B)	天端幅等 ± 20	⊖ 30	
			エプロン部 ± 40	⊖ 60	
		厚さ(T)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁、エプロン部 等	⊖ 30	
		高さ(H)	⊕ 30 ⊖ 20 導流壁等	⊖ 30	
		長さ(L)	⊕ 100 ⊖ 65 導流壁、エプロン部	⊖ 100	
	護床ブロック (異形ブロック)	基準高(V)	± 100	± 150	基準高については施工 面積 100 m <sup>2</sup> につき 1 箇 所の割合で測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		面積(A)		⊖ 0.2%	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
—	構造図に朱記、併記することが困難なもの	基準高、幅、厚さ、高さ、長さ		
基準高で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの	—		

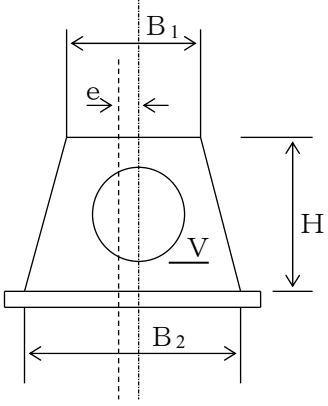
工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
16 海 岸 河 川 工 事	捨石工 消波ブロック	基準高(V)	⊕ 200 捨石工は特別仕様書による	⊖ 300 捨石工は特別仕様書による	基準高、幅については施工延長おおむね 50mにつき 1箇所割合で測定する。
		幅(B)	⊕ 200	⊖ 300	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの		

工 種	項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
17 た め 池 改 修 工 事	堤体工	基準高(V)	⊕ 65	線的なものについては 施工延長おおむね 20m につき 1 箇所の割合で 測定する。 上記未満は 2 箇所測定 する。
		堤幅(W)	天端幅、小段幅等 ⊖ 65 (鋼土 ⊕ 300、⊖ 0)	
		法長(L)	⊖ 65	
		施工延長		
	洪水吐工	基準高(V)	⊕ 20	基準高、幅、厚さ、高さ、 中心線のズレについて は施工延長 1 スパンに つき 1 箇所の割合で測 定する。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 表示箇所を測定する。
		幅(B)	⊕ 20	
		厚さ(T)	⊕ 13	
		高さ(H)	⊕ 20	
		中心線の ズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	
		スパン長 (L)	直線部 ⊕ 13 曲線部 ⊕ 20	
		施工延長 (又は長さ)		
			⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2)	結果一覧表によるもの (様式 3-1)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、堤幅、法長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	左記のもので箇所単位のもの		1 鋼土の幅は盛土高 1m 毎に管理する。 2 測定は原則として、水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。 3 出来形測定と写真は同一箇所で行う。 4 出来形図は横断図面を利用して作成する。
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、スパン長で20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ		スパン長の標準を 9 m とした場合。

工 種		項 目	管理基準値(mm)	(参 考) 規格値(mm)	測 定 基 準
17 た め 池 改 修 工 事	樋管工 同上付帯構造 物(土砂吐ゲ ート等)	基準高(V)	⊕ 20	⊕ 30	基準高、幅、厚さ、高さ、 中心線のズレについては 施工延長 10mにつき 1箇所割合で測定する。 ジョイント間隔につい ては、1本毎に測定す る。 箇所単位のものについ ては適宜構造図の寸法 表示箇所を測定する。
		幅(B)	⊕ 20      ⊖ 13	⊖ 20	
		厚さ(T)	⊕ 20      ⊖ 13	⊖ 20	
		高さ(H)	⊕ 13	⊖ 20	
		中 心 線 の ズレ(e)	直線部 ⊕ 35 曲線部 ⊕ 65	直線部 ⊕ 50 曲線部 ⊕ 100	
		施工延長		⊖ 150	

管 理 方 式			測 定 箇 所 標 準 図	摘 要
管理図表によるもの (様式 2-1、2-2、3-4)	結果一覧表によるもの (様式 3-1、3-4)	構造図に朱記、併記するもの		
基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレ、ジョイント間隔で 20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの及び施工延長	箇所単位の構造物について、基準高、幅、厚さ、高さ		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基準高(V)は管底を原則とする。</li> <li>2 プレキャストコンクリート製品使用の場合である。</li> <li>3 底樋がトンネルの場合は、農業土木工事施工管理基準 5 水路トンネル工事の水路トンネルに準ずる。</li> <li>4 斜樋等付帯構造物は農業土木工事施工管理基準 1 共通工事のコンクリート付帯構造物に準ずる。ただし、基準高(V)は、取水孔(ゲート中心)の標高とし、高さ(H)は斜面直角方向とする。</li> </ol>